

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	大木 美穂 ( おおきみほ )
所属・資格 (※学生の場合は課程・学年を記載)	学士課程 4年
発表年月 または事業開催年月	2021年 9月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	地域活性学会第13回研究大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	大木美穂, 伊藤和哉, ベイセンバイ ゼレ, タペノワ グルデン, 黒澤栄則, 齋藤篤, 扇原淳
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	コロナ禍における祭りのオンライン開催に関する研究
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p><b>【研究の背景と目的】</b></p> <p>世界的な新型コロナウイルス感染症流行、いわゆるコロナ禍の影響で、日本全国の多くの伝統的な祭りが開催中止となった。一般財団法人マツリズムが実施した、コロナ禍での祭りの実態と意識調査によると、「コロナで失われる可能性が高いと思う日本文化は何か」という質問結果の1位が「お祭り」であった。一方で、中止となった祭りをオンラインで開催するケースもあり、主催者や地域の考え方によって判断の違いが見られた。</p> <p>2020年に株式会社オマツリジャパンが実施した調査では、2021年以降のお祭り開催について、約9割が「オフライン開催を検討している」と回答しているものの、すでに今年度のお祭りも中止またはオンライン開催を決めたケースも見られる。</p> <p>本研究では、コロナ禍における祭りの開催状況について整理するとともに、祭り中止に対する住民の思いについて分析することで、with/after コロナにおける祭りのあり方について検討することを目的とした。</p>	
<p><b>【対象と方法】</b></p> <p>研究1：オマツリジャパンが公表する『オンライン祭り』を参考に、2020年と2021年の開催情報がある49の祭りと、我々が埼玉県ふるさと支援隊として活動する埼玉県秩父郡皆野町で行われる秩父音頭祭りを対象として、開催動向について分析した。研究2：埼玉県秩父郡皆野町の秩父音頭祭りを対象に、祭りが中止となったことに対する思いについて、住民2人を対象として半構造化面接を行った。</p>	
<p><b>【結果と考察】</b></p> <p>研究1では、2020年にオンライン開催にて実施された岐阜県の「郡上踊り」では、Zoomを用いたリアルタイム企画やYouTube配信が行われ、50万以上のアクセスがあった。参加者からは、「今年はコロナで中止だが、逆にZoomで繋がるのができて嬉しい」(カナダ・トロント)、「母へ、今年だからこそできる誕生日プレゼントとした」(多治見市)など、これまでオフラインで開催されていたお祭りでは得られなかったお祭</p>	

りの新たな価値が創出されたと思われた。

研究 2 として、半構造化面接では、「コロナで祭りが開催できず、非常に残念」といった声が聞かれた。また、コロナ禍における祭りのあり方については、「一人一人がコロナに関する対処法を考えながらやっていけば、コロナの中でも秩父音頭はできるのでは」「存続のためには、形を変えて少しでもみんなが楽しめるように変化させることが必要」といった声が聞かれた。コロナ禍において、地域の祭礼行事の役割を改めて考えるきっかけとなっていることや、伝統文化の継承のためには、社会情勢に合わせて柔軟に対応することが必要であることに対する気づきがみられた。

祭礼行事については、文化財保護の観点に加え、地域活性化の観点からも重要な地域資源として見直されている。加えて、健康日本 21（第 2 次）でも健康寿命延伸要因として明記されているソーシャル・キャピタル（以後 SC）への影響も指摘されている。稲葉は岸和田だんじり祭を例にとり、祭りを SC の総合醸成装置としてみなしている。コロナ禍によって各種祭りが中止となった影響として、中長期的には地域住民や関係人口の QOL や well-being に負の影響を及ぼす可能性があり、今後はそのことに関する実証的な研究が求められる。

#### 【今後の展開】

オフラインでの祭り開催によって醸成された SC を保持・増進させるという視点から、今後さらにオンライン開催した祭りに関する分析を進め、新たな祭りの形態の創出要因を明らかにし、with/after コロナ時代の伝統的な祭礼行事のモデル類型を提示する。